

マリンレジャー安全レポート

第七管区海上保安本部
マリンレジャー安全推進室
TEL093-321-2931 (担当; 上野)

臨時号 平成 27 年 8 月

今月に入り、水上オートバイ等で曳航して遊ぶビスケット、バナナボート等（以下、「被引浮体遊具」といいます）の事故が多発しているため、更なる事故の未然防止のため臨時号を発刊します。
以下に被引浮体遊具による事故事例等を紹介いたしますので、再発防止対策に努めてください。

★ 被引浮体遊具の事故多発！！ ★

～ 被引浮体遊具の一例 ～



通称：ビスケット



通称：バナナボート



通称：エイトチューブ

1 事故の状況

昨年度、第七管区海上保安本部管内における被引浮体遊具による負傷事故は0件でしたが、今夏に入り、この被引浮体遊具による負傷事故が多発しています。（7月：1件／1人負傷、8月：4件／8人負傷）

この事故では、左腕骨折（全治3ヶ月）、頭部裂傷（3針縫合）等の負傷を負っていますが、過去には、被引浮体遊具による死亡事故も発生しております。

なお、水上オートバイは、約10年前では最高速度80km/h程度（200馬力未満）が主流であったところ、最近では最高速度100km/h超のスピードが出る300馬力超の性能を有する水上オートバイも販売されています。

また、マリンレジャーの多様化により、今も増加傾向にあるこれら被引浮体遊具は、海外輸入商品も多いことから、英語等の外国語による説明書も多く、事故の原因を調査すると、説明書に記載されている注意事項が遵守されていないこともあるようです。

被引浮体遊具による死傷事故は、骨折のように治る怪我もあれば、内臓損傷、頭部打撲による意識不明等、一生の後悔に繋がる怪我を負うこともあり、最悪の場合は死に繋がります。



2 被引浮体遊具による過去の事故事例

事例1）狭い海域を通り抜けようと無理な操船による事故

被引浮体遊具を曳航した状態の水上オートバイが、養殖筏の間を通航したところ、被引浮体遊具が養殖筏に接触し、この被引浮体遊具の同乗者が、左手甲骨折等を負った。

事例2）被引浮体遊具に同乗していた者同士が、海中転落時にぶつかり負傷

被引浮体遊具に同乗していた者同士が海中転落時にぶつかり、頭や鼻を打った。

（ヘルメット等の着用により、事故を防止することのできた事例）

事例3) 被引浮体遊具から海中転落後に他船と接触し負傷

被引浮体遊具に同乗していた者が海中転落し、海上待機中に他船（水上オートバイ、プレジャーボート等）と衝突して負傷した。

3 被引浮体遊具付属の取扱説明書（一例）

被引浮体遊具の種類によって注意事項は異なりますが、被引浮体遊具に付属している取扱説明書の記載一例を次に示します。被引浮体遊具を安全に楽しむための参考としてください。

- ・水上オートバイの船長は、被引浮体遊具を完全に制御できない。このため、経験豊富な者が水上オートバイを操縦し、被引浮体遊具の監視1名が必要である。
- ・被引浮体遊具の同乗者は、泳ぐことの出来る者に限る。
- ・被引浮体遊具に同乗する者が大人の場合は、時速20マイル（時速約37km）、子供の場合は、時速15マイル（時速約28km）の速力を絶対に超えないこと。また、操船者の技量を超える速力で使用しないこと。（バナナボート製造メーカーの中には、大人・子供に限らず、時速15マイル（時速約28km）を上限とする記載例もあります。）
- ・被引浮体遊具の同乗者は、水上スポーツ用ゴーグル、救命胴衣、ヘルメット等の保護具を着用すること。
- ・被引浮体遊具は、広いオープンスペースで使用し、浅瀬、海岸、岩、ボート、ブイ等の障害物から50ヤード（約46m）以上離れること。混雑した場所やターンしたときに多くの事故が発生している。

※ その他

「被引浮体遊具」で遊ぶ際には、身体の保護具として、ウェットスーツの着用を推奨します。

（マリンレジャーの盛んな沖縄県内の多くの団体等においては、「被引浮体遊具」で遊ぶ際にはウェットスーツの着用を原則としています。）



海で命を守る

3つのポイント

- ライフジャケットの常時着用
- 連絡手段の確保
 - ・防水携帯電話の携行！
- 新規  通報位置特定のため、
通報時にGPS(位置情報)をON！
- 海のもしものは「118番」

未来に残そう 青い海
海上保安庁第七管区海上保安本部



バックナンバー

http://www.kaiho.mlit.go.jp/O7kanku/gyoumu/kyunan/marine_anzen_report/